

令和 2 年 6 月 15 日現在

機関番号：15401

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2017～2019

課題番号：17K02776

研究課題名(和文) 宋版一切経諸版における附載音釈の基礎的研究

研究課題名(英文) Basic study of on-syaku in the versions of published in the Sung Canons

研究代表者

佐々木 勇 (SASAKI, Isamu)

広島大学・教育学研究科・教授

研究者番号：50215711

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,500,000円

研究成果の概要(和文)：本研究では、宋版一切経中の『大般若経』を対象を絞り、宋版一切経諸版の附載音釈を比較した。その上で、宋版一切経付載音釈が日本の『大般若経』および『大般若経音義』の音注に与えた影響について考察することを目的とした。

宋版一切経中の『大般若経』音釈の資料収集は完了した。また、日本における『大般若経』訓点資料の調査と実態報告もできた。しかし、宋版一切経中の『大般若経』音釈を対象を絞っても資料が膨大であり、そのすべてのデータ化は完了していない。

研究期間終了後も、データ公開のための作業を続けたい。

研究成果の学術的意義や社会的意義

宋版一切経は、日本に大量に輸入され、大切に保管されてきたものの、情報公開は進んでいない。その中、書陵部蔵の開元寺版・東禅寺版混合蔵の画像が公開された。増上寺蔵本の思溪版の公開準備も進んでいる。いっぽう、寺院・文庫に保管されている日本の訓点資料は、活用する研究者が限られているためか、その公開は進まない。本研究では、それを翻刻し、公開した。

また、本研究はその音釈を研究対象とし、諸研究に広く活用できるデータ公開を目指した。しかし、電子データ化にはそのデータ量ばかりでなく、漢字字体も大きな壁になっている。公開が進んでいる画像とのリンクを検討する必要がある。

研究成果の概要(英文)：Of the Sung Canons all the Buddhist sutras it was over 『大般若経』 on-syaku (音釈). In addition, I did investigations and the actual situation reports of Japanese Kunten Language (訓点) on 『大般若経』.

However, that data-processing is not completed.

After this study period, I am going to continue this work for data exhibitions.

研究分野：日本語学

キーワード：宋版一切経 音釈 東禅寺版 開元寺版 思溪版 磧砂版 大般若波羅蜜多経 大般若経音義

## 1. 研究開始当初の背景

申請者は、2007年～2016年の9年間、科学研究費による調査によって、醍醐寺蔵宋版一切経東禅寺版に直に接した。その成果として、全6102帖の目録・『醍醐寺蔵宋版一切経目録』(2015年、汲古書院、B5・全4300頁)も出版した。現在も原本調査は進行中である。その調査の中で、宋版東禅寺版から始まり開元寺版に引き継がれ、思溪版以降の帖末音釈にも受け継がれた、函別音釈に強く興味を持った。600函を超える経函のほとんどに、函別の音釈一帖が附載されているのであり、これらは東アジアの言語・文化・思想に大きな影響を与えたに違いないと思われた。

しかし、現時点では、一般の研究者は、宋版一切経の閲覧が困難であり、大量の音釈の実態を知ることができない。そのため、宋版一切経音釈の研究は、ほとんど進行していない。

以上のような現状に鑑み、本研究を進めることが、世界最大の東禅寺版コレクションである醍醐寺蔵本に接することができた者の責務であると感じるようになった。そこで、2014～2016年には、基盤研究(C)「宋版一切経東禅寺版附載音釈に関する基礎的研究」の交付を受け、醍醐寺蔵本音釈のデータベース化を試みた。

この度の研究では、『大般若経』に限定して、宋版諸本の音釈を比較するとともに、宋版音釈の日本への影響を考察したいと考えた。

上記研究に類する研究は、宋版を出版した中国においても、それが伝えられた東アジアの諸国においても行なわれていない。宋版一切経諸版のまとまった遺品がそれらの国々には現存しないためである。

本研究は、宋版一切経諸版が多く残存する日本の研究者によって推進されることが世界の研究者から求められている。

## 2. 研究の目的

「宋版一切経諸版における附載音釈の基礎的研究」と題する本研究の全体構想は、北宋末～南宋に印行された宋版一切経諸版、すなわち東禅寺版・開元寺版・思溪版・磧砂版に附載された音釈の実態を明らかにし、それらが日本に与えた影響を解明することである。

本研究では、宋版一切経中の『大般若経』を対象を絞り、諸版の附載音釈を比較することで、学界未公開の実態を明確にする。その上で、宋版一切経付載音釈が日本の『大般若経』および『大般若経音義』の音注に与えた影響について考察することを目的とした。

## 3. 研究の方法

本研究を、以下の方法・手順で進めた。

### A. 資料収集

書陵部蔵宋版一切経東禅寺版・開元寺版『大般若経』の写真を整理する。

書陵部蔵宋版一切経は、東禅寺版・開元寺版の混合蔵である。これは、前回の科学研究費で写真を取得している。これを、東禅寺版・開元寺版を区別して、整理する。

書陵部蔵宋版一切経『大般若経』が開元寺版である帖につき、東寺蔵本東禅寺版『大般若経』の原本調査をする。

醍醐寺蔵宋版一切経の『大般若経』は、開元寺版である。この開元寺版『大般若経』の附載音釈および帖末音釈の写真を整理する。

醍醐寺および以前の研究における研究分担者・研究協力者の力により、附載音釈および帖末音釈すべての写真を撮影済みである。その大量の写真を整理し、研究に備える。

増上寺蔵思溪版『大般若経』ならびに書陵部蔵磧砂版『大般若経』の音釈写真を複写する。増上寺ならびに書陵部に、帖末音釈の写真複写を依頼する。

日本の『大般若経』写本・版本および『大般若経音義』の複製本および公開画像を購入し、必要に応じて原本調査をする。対象資料は、宋版の影響が考えられる院政期～南北朝期の訓点本とする。具体的には、まず聖語蔵『大般若経』訓点本の公開画像を購入する。また、目録等の写真で音注が書写・加点されている写本・版本を抽出し、その訓点の全貌を、それらの写本・版本を原本調査することによって確認する。

### B. データ入力

上記の写真・原本で確認した音釈の音注を、コンピュータ処理できるように入力する。

### C. データの分析と考察

上記データベースを基に、宋版諸版の『大般若経』音釈を比較し、異同を整理する。また、日本残存の院政期～南北朝期『大般若経』写本・版本および『大般若経音義』の音注に、宋版諸版の音釈のいずれかと一致するものが存するものか否かを調査し、その結果について考察を加える。

る。

#### 4．研究成果

本研究では、以下のことがらを行なった。

- 1．データ整理・確認 宋版一切経諸版（東禅寺版・開元寺版・思溪版・磧砂版）の音釈ならびに『大般若経』日本古訓点資料・音義のデータベースを完成させた。
- 2．データ分析 上記のデータを活用して、宋版一切経諸版音釈の異同を明らかにし、院政期～南北朝期の『大般若経』日本訓点資料ならびに『大般若経音義』への影響について考察した。
- 3．原本調査 原本でないとわからない点について、原本閲覧に出向き、確認した。
- 4．研究成果の公開 漢字音情報データの最終確認とその分析・研究を行ない、訓点資料の字音点を翻刻し、分析結果を論文として公表した。
- 5．本研究の基礎データのすべての整備・公表の準備を進めた。全データの公表には、今しばらくの時間を要する。

本研究の音釈データは、近い将来に、インターネット上で世界に公開する予定である。

この音釈データの活用により、東アジアにおける仏典音義・辞書の研究が新たな進展を見せることが期待される。

## 5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計10件（うち査読付論文 2件 / うち国際共著 0件 / うちオープンアクセス 7件）

1. 著者名 佐々木 勇	4. 巻 141
2. 論文標題 宮内庁書陵部蔵『大般若波羅蜜多經』磧砂延聖院版の字音点について	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 訓点語と訓点資料	6. 最初と最後の頁 1-13
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -
1. 著者名 佐々木 勇	4. 巻 1
2. 論文標題 根津美術館蔵春日若宮『大般若波羅蜜多經』の字音点について	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 沖森卓也編『歴史言語学の射程』	6. 最初と最後の頁 223-236
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -
1. 著者名 佐々木 勇	4. 巻 67
2. 論文標題 和泉市池辺家蔵「相州新大仏一切経」の底本	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 広島大学大学院教育学研究科紀要 第二部	6. 最初と最後の頁 1-9
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） <a href="http://doi.org/10.15027/46800">http://doi.org/10.15027/46800</a>	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -
1. 著者名 佐々木 勇	4. 巻 1
2. 論文標題 根津美術館蔵『大般若波羅蜜多經』鎌倉中期点	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 根津美術館蔵「春日若宮大般若経および厨子」調査報告書	6. 最初と最後の頁 257-354
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 佐々木 勇	4. 巻 62
2. 論文標題 日本語学会秋季大会シンポジウム「文献資料の最前線 - 原本・出版・デジタル - 」レポート	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 リポート笠間	6. 最初と最後の頁 50 - 52
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 佐々木 勇	4. 巻 第二部第66号
2. 論文標題 春日版『五部大乘経』の底本とされた宋版一切経 (三) 釈音の比較による検討と宋版との相違点	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 広島大学大学院教育学研究科紀要	6. 最初と最後の頁 1-10
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) <a href="http://doi.org/10.15027/44800">http://doi.org/10.15027/44800</a>	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 佐々木 勇	4. 巻 第87巻第3号
2. 論文標題 『徒然草』第九十二段の「得失」 文献学による古典本文確定の例として	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 國語國文	6. 最初と最後の頁 1-10
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 佐々木 勇	4. 巻 1
2. 論文標題 根津美術館蔵春日若宮『大般若波羅蜜多経』における 注記・注文および訓点の概要	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 根津美術館蔵「春日若宮大般若経および厨子」調査報告書	6. 最初と最後の頁 61-68
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 佐々木 勇	4. 巻 68
2. 論文標題 北野経王堂一切経（北野社一切経）の底本（一） 主たる底本	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 広島大学大学院教育学研究科紀要 二	6. 最初と最後の頁 1-9
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） <a href="http://doi.org/10.15027/48503">http://doi.org/10.15027/48503</a>	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 佐々木 勇	4. 巻 50
2. 論文標題 大東急記念文庫蔵『大般若波羅蜜多経』鎌倉初期写本（第二四函一六五架）の注文（上）	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 かがみ	6. 最初と最後の頁 11-35
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計1件（うち招待講演 1件/うち国際学会 1件）

1. 発表者名 佐々木 勇
2. 発表標題 日本語史における『一切経音義』の活用
3. 学会等名 デジタル時代の仏教学のあり方（招待講演）（国際学会）
4. 発表年 2019年

〔図書〕 計0件

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

氏名 （ローマ字氏名） （研究者番号）	所属研究機関・部局・職 （機関番号）	備考